



I.山行 公益事業等 報告	-	1~5
II.行事等、報告、案内・連絡	-	5、6
III.今後の予定	-	6

I. 計画山行・個人山行 報告

1. 山岳古道調査 白山 加賀禅定道 ハライ谷より登りにて踏査

日時 : 2022年10月2日(日) 1日夜半より行動
メンバー : 堀 八十嶋 樽矢(サポート) 2(3)名

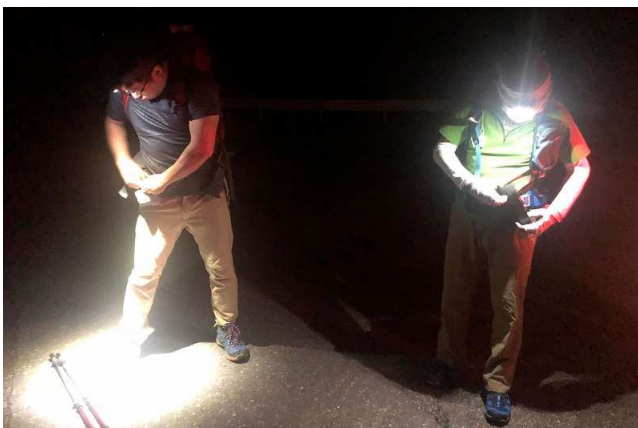
加賀禅定道は私(八十嶋)にとっては思い出深い道。学生時代に白山信仰で卒業論文を書くために初めて登り、その後も仕事の撮影などでたびたび登山している。

奈良時代に開かれたとされるこの道、史跡や伝説が数多く残る上、百四丈の滝や高山植物など自然の魅力も楽しめる。さらに標高2000mアップのきつい修行もできるという素晴らしい道だ。

今回は日本山岳会の古道調査として、とりあえず通して登りながら写真を撮るのが目的。そこまでは良いのだが、まさか0時にハライ谷出発、登頂し午後には別当出合まで降りるという素晴らしい計画……。

コースタイム14時間。堀先輩から味わい深いチャレンジの機会をいただいたことを感謝しながら登山に挑んだ。

〈ハライ谷登山口までは豪雨災害により通行止め、一里野ゲートにて準備中 1日23:20頃〉



登山開始からまもなく、8月の豪雨で土砂崩れした林道を通る。人が歩ける程度には復旧されていたが、

斜面の強度を考えると今後も崩れる可能性はありそうだった。

真っ暗な中、登山口を通過。ただただ登る。しかり場分岐の前で、クマらしき黒い影が行く手を横切る。見間違いか?暗くて判然としない。

この状況で襲われると難しい判断を迫られるだろう。夜行登山のリスクを再認識する。

奥長倉避難小屋近くで少し休憩。

どうしても眠く、笹藪の根元に転がって目を閉じる。眠る訳ではないが休憩したかった。

〈暗闇の百四丈滝 暗くて見えず 05:20頃〉



きつい美女坂で空を見上げると、払暁の深い青色が空を染め始めている。美女坂から天池の間で夜が明ける。

〈劔岳・後立山が色づきはじめ夜が明ける 06:00 頃〉



木道の脇に点在する池塘に朝日がきらめき、紅葉したチングルマの葉が光に透けて輝く。

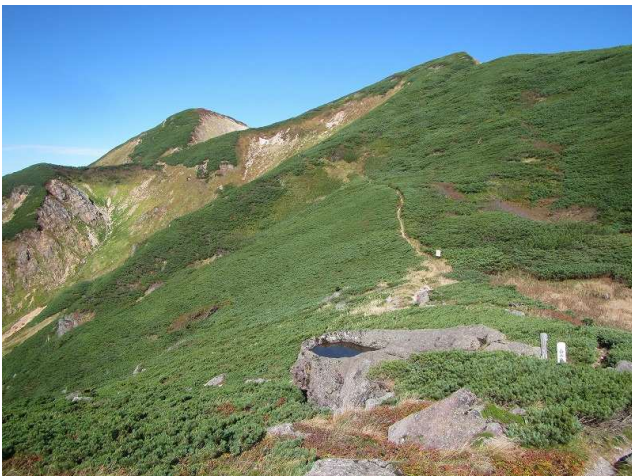
ようやく写真を撮る気になれたので、美しい自然の写真、朝日に輝く堀先輩の写真を撮った。

天池では旧天池室の石垣を写真に収める。ここは水もあるし、江戸時代には宿泊施設として登山者を受け入れていたという。当時は観光登山も盛んに行われていたという記録がある。庶民も白山に登りここに泊まったのだ。どんな人が、どんな思いでこの朝日を眺めたのだろう。そこからは目が冴えて黙々と登るピッチと、眠気と戦いながら登るピッチの繰り返し。自然の情景は素晴らしい・・・森林限界を超え高茎草原とハイマツが支配する平原が広がっている。こうした広大な高山の雰囲気は山頂より北の登山道で顕著だ。

白山には本当にいろいろな顔がある。

四塚山までは勢いで登れるが、そこからが長い。

草紅葉の写真撮影で気を紛らわせる。御手水鉢の近くには旧加賀室と思われる石垣もあるが、ほとんどハイマツに覆われている。ここは江戸時代までは加賀の山岳修行者の前線拠点的な場所だったのかもしれないが、現在は往時を偲ぶのが難しい。当時の景色は想像するしかなく、それもまた楽しいと言える。



〈最後の大汝の登りの前、七倉・四ツ塚を振り返る、中央下方は御手水鉢 09:00 頃〉

最後の大汝の登りはだらだらと長くて心が折れる。

しかし足を進めればいずれは登頂できるのは今も昔も同じ。ハライ谷から10時間で登頂。石垣に守られたお宮さんに詣でる。とりあえず江戸時代の人に笑われない程度には頑張れたと思う。が、当時の登山者はたぶん0時発で登山はしなかっただろう。人間の精神は野蛮へと退化しているのかもしれない。

白山室堂で大休止。飯と水分を補給して元気に。

長居すると眠くなるとばかり、勢いこんで下山。

別当出合には14時に到着した。

学生の頃は下山したときにはともかく足が痛かったが、今はそうでもない。景色や歴史を楽しむ余裕も増した気がする。自分は進歩したのか？それは分からないが、進歩があったとしたら人生で一番登っている山、白山のおかげだ。何度も登ることで魅力は深まる。

白山は本当に良い山だと思う。



〈別当出合に下山 13:50 着〉

[文：八十嶋 写真：八十嶋・堀]

2. 岐阜支部 50 周年記念式典 5 支部合同懇親山行 猪臥山

日時 : 2022 年 10 月 23 日(日)、23 日(月)

メンバー : 樽矢 大幡 2 名

岐阜支部 50 周年記念行事に大幡副支部長と参加してきました。

詳しくは月報「山」2022 年 11 月号(No930)に岐阜支部からのレポートがありますので、そちらも参照ください。

10 月 23 日、日曜 9 時に合流、高山の飛騨プラザホテルまで秋の山並みを見ながらゆっくり移動。

昼前に会場のホテルに到着し、とりあえず外に出て昼食とする、ホテルの方にどこか食べるところは無いかと尋ねたら、歩いてすぐのところに「ちとせ」と言う焼きそば屋があるということで、二人で向かうと、あれれ焼きそば屋に行列が・・・ さすが観光地高山！、食べ物屋に並ぶのは苦手な二人だが、ここはホテルお勧めと言うことで。焼きそば定食など食べてホテルに戻る。ちなみに焼きそばはソース焼きそばで、旨かった。

14 時から萩原編集長（今は元）の「岐阜県の山～笠ヶ岳に学んだこと」と題して、青学山岳部での笠ヶ岳を 4 年間四季にわたりつづさに踏査した話などスライドを交えて話されました。この講演会は一般にも開放され 150 人以上聴講されていました。

講演会の後は祝賀会、特に途中から会員でもあるリピート山中氏の演奏で、今回岐阜支部が作成した「山の歌集」での大合唱での祝賀会は楽しく、また旧知の会員にも会えてとてもいい祝賀会を満喫した。



翌 24 日は記念登山、朝各自で移動して猪臥トンネル横の駐車場に集合、4 班に分かれて猪臥山を目指す、石川支部は古野会長と関西支部での第一班、関西支部からは旧知の黒君も参加、岐阜支部会員先達で晩秋の山を楽しみながら登る、古野会長はなかなかの健脚で常に先頭になっていました。天気は晴れ、汗もかかずに頂上へ、360 度の展望を期待したけど、穂高、乗鞍、などは雲の中だが、わずかに御岳は噴煙も確認できる。



しばしの昼食タイムと、リピート山中さんの山頂ミニ・コンサートでいつもと違う山の贅沢な時間を頂きました。

まだ風が冷たく、長居は厳しくなってきたので、班ごとに下山。

なお前日に岐阜支部から今回の猪臥山山行はぜひ 5 支部合同懇親山行として申し入れがあり、石川支部ほか富山、福井、京都滋賀に各支部長も了解ということで、コロナ渦で中止に追い込まれていた 5 支部合同懇親山行は、2023 年度は石川支部が担当となり、今後も続けて行き、他支部との懇親と日本山岳会会員であることの意識を再確認する場としての行事としたい。

[文・写真：樽矢]

3. 富士写ヶ岳登山道整備

日時 : 2022年11月12日(土)

メンバー : 樽矢 大幡 大庭 3名 他会より応援10名

秋の登山道整備

夏前に一度不惑新道(小倉谷山ー最低鞍部間)の整備をしたが、その後手を入れてないので、天気も良さそうなので急遽草刈り会を実施することになった。

今回は石川支部より2名、小松ブルーベル山の会から10名の参加となった。

朝0430起床、大内駐車場集合0730

今日の整備区間は富士写ヶ岳と小倉谷山の最低鞍部から富士写ヶ岳に登る区間、すでにO氏は先週300m程刈ったので、そこから参加者何組かに分かれて300mほど離れて頂上に向かって刈り始める。

作業開始1000、1120に早めの昼食、その後頂上まで登り返して休憩、頂上直下区間をさらに少し刈り広げる。なんやかやで、1315に下山開始 駐車場1430

朝から快晴で白山連峰の稜線が明るくなって来るのは素晴らしい

紅葉はすでに終わって登山道は枯れ葉の絨毯の上を歩くよう、秋は膝に優しい登山道になります。

登山道整備は細く長く継続する熱意が大切です。

今後は作業者高齢化、人手が少なくなりますが、他の組織と協力して整備の楽しさも知ってもらえればと継続は充分可能だと思います。その為に会員が楽しそうに作業をする姿も大切です。

最高の日を満喫した登山道の草刈りの日でした。

シャクナゲの花芽がたくさんついて来年は楽しみです。



[文・写真:樽矢]

4. 2023年1月 月例山行 猪臥山

日時 : 2023年1月9日(月、祝日)

メンバー : 樽矢 八十嶋 尾山 3名

支部1月の月例山行

猪臥山のおかわりのおかわり、、、

午後から天気が崩れるという事で、0600に集合、猪臥山トンネル横着0720、出発0745 圧雪のトレースを登り 山頂着0935 暫し暖かいもので休憩、1020下り開始、駐車場1120

今年初山行でラッセルも無し、山頂は殆ど無風、

残念ながら穂高、白山、乗鞍は雲の中だが、御岳は雲の上に遠望でき、眺めの良い山を堪能した、楽ちん過ぎる今年の足慣らし山行でした。



[文:樽矢 写真:樽矢、八十嶋]

5. 年次晩餐会

日時 : 2022年12月3日(土)

メンバー : 樽矢 大幡 大庭 堀岡 徳田 新入会員として徳田、堀岡は壇上にて紹介

3年ぶりの日本山岳会年次晩餐会、朝一の新幹線で新宿京王プラザホテルへ、10時から支部担当者会議、2025年の設立120周年に向けて各事業の進捗報告あり、石川支部は古道調査は現地踏査やコラムは完了。

あとは纏めですが、まだです、

午後は講演会、ヒマラヤ遠征や大峰南奥駆道の千日刈峰行など、いずれも興味深く聴講させて頂いた。

17時からおよそ350人での晩餐会、旧知の山仲間との再会など、楽しいひとときでした。

石川支部の登山道整備にもヒントを貰ったり、私のこれからの山への付き合い方の道標も貰った様な気がしました。



[文・写真：樽矢]

II. 行事等 報告、その他 案内・連絡

1. 会務報告

感染拡大を防止の為、三水会は少人数にて開催しています。

・三水会 2022年10月19日(水) 19時~21時

参加 樽矢支部長 大幡副支部長 堀事務局長 田井 村上 5名

議題 山岳古道調査 白山加賀禅定道計画の確認 白山報告 樽矢体調不良の為、室堂までとなった

10月2日 加賀禅定道踏査 堀 八十嶋 2名にてハライ谷より0:00に入山、別当出合に14:00下山途中、迎いの車両との時間調整で甚之助避難小屋にて小一時間時間をつぶす、実働10時間半にて踏査完了。なおプロジェクターにて写真報告

10月23・24日岐阜支部30周年記念式典及び5支部懇親山行詳細 参加者樽矢、大幡、埴崎 予定

・三水会 2022年11月16日(水) 19時~21時

参加 樽矢支部長 大幡副支部長 堀事務局長 安田 村上 5名

議題 岐阜支部30周年記念行事および5支部懇親山行報告

11月13日(日)富士写ヶ岳登山道整備 整備区間 小倉谷山ー富士写ヶ岳間最低鞍部より富士写ヶ岳側草刈り参加 石川支部 樽矢 大庭 尾山(ブルーベル会員) 石川労山 小松ブルーベル 会長以下10名

・三水会 2022年12月21日(水) 19時~21時

参加 樽矢支部長 大幡副支部長 堀事務局長 埴崎 4名

議題 年次晩餐会報告 参加 樽矢 大幡 大庭 堀岡 徳田 新入会員として徳田、堀岡は壇上にて紹介された。2023年度 5支部懇親山行は石川支部が幹事支部となり協議、案として石動山多根道など検討するとした。

・三水会 2023年1月 は会場予約の都合と大雪により中止となった。

・三水会 2023年2月15日(水) 19時~21時

参加 樽矢支部長 大幡 堀 津田 藤井 田井 6名 令和4年度 役員会を兼ねる

議題 1. 総会日程

2. 5支部合同懇親山行について

3. 山の天気ライブ授業について

- 4, 総会資料
- 5, 山岳古道調査 報告
- 6, 久弥祭 開催について
- 7, その他報告事項

以上を協議し、総会までに資料作成などとする。詳細については各役員へ配布

2. 令和5年度総会「令和4年度報告、令和5年度計画」

- ・4月1日(土) 15:00～ 場所 : 吉野谷セミナーハウス
にて開催します。お時間のある方、ご参集をお願いします。

3. 第27回久弥祭開催について

令和5年度(2023年)の第27回久弥祭は、深田久弥 生誕120周年となり、イベントが予定されています。イベントの日程に合わせて久弥祭も実施となるとのことで4月では無く10月22日(日)を予定しています。
参考: 1903年(明治36年)3月11日、石川県江沼郡大聖寺町字中町(現・加賀市)に生まれる。

4. 入会

1名の方が入会されました、皆様今後よろしくお願ひします。2023年1月の入会です、「山」2023年2月号(No.933)に掲載されています。これからクラブライフをお楽しみ下さい。

- ・出水 正幸 (17013)

III. 今後の予定

1. 行事予定

支部の行事予定に係わらず、山行について三水会などでリクエスト・提案お願いします。

令和5年度の予定については総会資料に添付されています、総会にて承認後に正式版となります。

編集後記

新型コロナについて、制限されていたことが緩和され、それに伴い山岳遭難件数もコロナ前に戻っているとのことです。

先般の甲斐駒ヶ岳での滑落死のご遺族がSNSに投稿されています。

登山計画書の提出、ココヘリの重要性が書かれています。

記事の中で「**誰もが自分は大丈夫、滑落遭難なんてしないと
思って山に行くと思います。でも、絶対なんてないんです。**」

その通りです、

この記事をご覧になり今一度ご自分の登山行動を見直しましょう。

日本山岳会 石川支部報

発行日 2023年(令和5年度)3月31日

発行者 公益社団法人 日本山岳会

支部長 樽矢 導章

TEL/FAX : 076-237-5769

編集者 支部報担当 堀 正春

(事務局) TEL/FAX : 076-248-0175

E-mail isk@jac.or.jp

HP <https://jac-isk.com/index.html>